

平成 27 年度検討内容について

平成 26 年度調査において選定した重要漁業生物（下表参照）への影響について、下記の 3 つの方針に基づき検討を進める。なお、重要漁業生物は、平成 27 年度現地調査結果を踏まえ、柔軟に見直す。

表 重要漁業生物一覧

分類区分	種 名
魚類	1 マコガレイ、2 メイタガレイ、3 イシガレイ、4 スズキ、5 マアナゴ、6 マゴチ、7 カサゴ、8 アイナメ、9 メバル、10 シロギス、11 カタクチイワシ、12 マイワシ、13 イカナゴ、14 マアジ、15 クロダイ、16 ボラ、17 メナダ、18 コノシロ、19 サヨリ、20 アユ
エビ・カニ類	21 シャコ、22 クルマエビ、23 ヨシエビ、24 サルエビ、25 シバエビ、26 ガザミ
タコ・イカ・ナマコ類	27 マダコ、28 アオリイカ、29 コウイカ、30 マナマコ
貝類	31 アサリ、32 タイラギ、33 アカガイ、34 トリガイ、35 バカガイ、36 ハマグリ
その他	37 ノリ(アマノリ)、38 アマモ（主要な藻場構成種として）

方針 1 現地調査結果の検証

平成 26 年度 1 年間の調査結果から、候補地及び周辺海域は漁業生物が集中する場所のひとつであることがわかり、この候補地及び周辺の機能をしっかりと評価することが必要である。

このため、引き続き実施している平成 27 年度の現地調査結果も含め、これまでの調査結果の検証を行うとともに、調査内容も柔軟に見直す。

方針 2 伊勢湾シミュレーターによる検討

観測値と計算値の単純な比較検討による検証に加え、今後は漁業生物の増減に関わる水質・底質項目の変化を精度良く予測できるかといった視点での検証が重要である。

重要漁業生物の評価項目として想定されるものの中で、「流速・水温・塩分・DO」は候補地周辺でも連続観測データが豊富に取得されており、それらの再現の向上をさらに図っていく。

また、マコガレイ仔魚の逆輸送シミュレーションモデル、アサリ浮遊幼生シミュレーションモデルなど、予測評価に結びつけるためのモデルの再現性の向上、開発を進める。

方針 3 予測評価方針の検討

重要漁業生物の分布や生息を左右する要因について、現地調査結果や既存知見をもとにして検討した上で、予測評価の留意事項及び課題を抽出し、予測評価方針を検討する。カレイ類、二枚貝類については供給ネットワークの詳細な検討を行ったうえで予測評価方針を検討する。

また、38 種類の多岐にわたる漁業生物への影響を精度良く評価していくため、必要に応じて各生物の生態に精通している有識者にヒアリングするなど既存知見の収集を行い、予測評価の検討に活用する。